



教育委員会より

「多日から発信！SDGs」

「アメリカで学んだSDGs」

東原 彦 舎 東 部 校 9年1組 平山 幸

私は令和5年度の年末年始にかけて、アメリカのワシントン州でホームステイを経験しました。12日間のホームステイは、多久市で取り組まれている海外派遣事業で行われているものです。ワシントン州はロシア・樺太くらいの緯度です。外は寒かったですが、家の中はとても暖かく快適で、どうしてだろうと疑問に思いました。

ホームステイの初日に、私は紙のごみをごみ箱に入れました。するとホストファミリーは、私にジェスチャーを交えながら、紙のごみや野菜くずのような生ごみは暖炉のそばの箱に入れるように言いました。なぜだろうと思ひ、ホストファミリーの様子を観察していると、そのごみを暖炉の燃料として使っていました。よく見ると、エアコンのような機械は設置されていませんでした。暖房器具はその暖炉だけでした。私はこの暖炉だけで家中が暖かくなっていることに気付き、驚きました。

この暖炉で暖められた空気が家中にはりめぐらされているパイプを通して家中を暖めていたのです。つまり、暖房のために電気を使っているませんでした。

この体験を通して、私は生活の中でできるだけごみを出さないように努力し、出す場合でもルールに従って分別して、ごみをもう一度資源に戻すことを意識します。もう一つは家庭で省エネに取り組むことです。使っていない電気は消す、夏場のエアコンの設定温度を上げるなど、すぐにだれでもできることを愚直にやっけていき、限られたエネルギー資源を長期間保てるように貢献していきたいです。

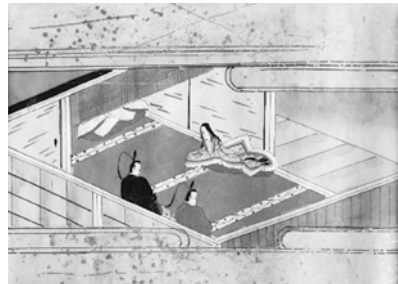


連載

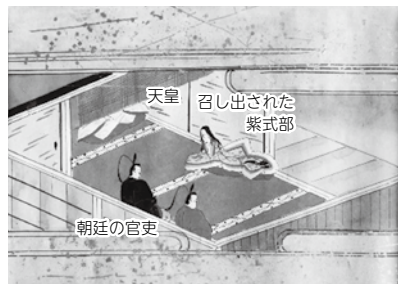
紫式部・和泉式部・小式部の物語 挿絵(1)

多久家資料『小しきふ小式部』を編集

『小式部(上)』挿絵1 紫式部の話



容姿端麗、琴・琵琶・歌などに優れているとの評判が朝廷にも広まり、召し出されるを紫式部とされました。



紫式部は平安時代中頃の作家・歌人で、幼少のころから漢文にも親しみ、『源氏物語』『紫式部日記』などを残し、『小倉百人一首』にも和歌があります。紫式部は藤原宣孝と結婚し娘を産みましたが、夫はまもなく亡くなりました。その後、『源氏物語』を書き始め、藤原道長に召されて一条天皇中宮の藤原彰子に仕えました。『小式部』の物語は、成人となった紫式部の登場が始まります。

紫式部の評判が朝廷にも届き、召し出されました。紫式部の容姿については「楊柳が風になびくようです。翡翠の簪は、蝉の羽が透き通るようが見えます。乱れてかかる髪は透けて見える顔の気品は、薄雲に月が透き通るようです。唇は芙蓉の花のようです。姿は庭園の中に見える花の夕映えのごとく、咲きこぼれた梅や桜のようです」。心根や修業については「奥深く健気な品よく、琴・琵琶の技量は並ぶ者がありません。歌の道は昔の衣通姫の跡を継ぎ、伊勢・小町のようです。更に、仏法の道にも詳しく、竜女の跡を訪ね、法華経を怠りず不断にお読みになつています」と、物語は記されています。

この場面の後に「ある夜に不思議な夢を見て懐妊し、玉を敷ぎ詰めたような美しい姫を生みました」と、物語は続いていきます。

多久市郷土資料館長 藤井伸幸

市民文芸

短歌 《妻の芽短歌会 互選》

- ◆ 車椅子押し行く先にこぼし咲く
春待つ夫の笑顔が嬉し
梶原恵美子
- ◆ 僕たちはどんな時でも親切から
忘れはしない愛なのだから
野崎 隆幸
- ◆ 妻逝きて独りとなりし義兄の家の
夕暮るる窓灯の点りある
浦野 嘉恵
- ◆ うすうすと冬陽の中に咲き揃う
小庭の隅の 蠟梅の花
川浪 信子
- ◆ 途切れなくマラソン五人目輩出せし
彼の二十年深く祝しつ
尾形 節子

俳句 《大石ひろ女選》

- ◆ 木の芽風ダムの放流始まり
富樫 明美
- ◆ 花びらの水面流るる多布施川
武富 律子
- ◆ みつうみへひとりぶらこ 漕ぎにけり
おおやはな
本村 則子
- ◆ 春雷に赤子が泣いてしまひけり
本村 則子
- ◆ 芹の水音なく潜る神の橋
大石ひろ女

川柳 《多久川柳会 互選》

- ◆ 花見酒 国際色に酔う桜
小副川ヨシエ
- ◆ 松の葉は枯れて落ちてもベアのま
松下 修
- ◆ 高齢にまだ人生の岐路が来る
西山 残月
- ◆ ルンルンと何処に行こうか花便り
高塚チカ子
- ◆ 花見酒 灯籠越のおぼろ月
田中 正春